
第7期 311ゼミナール
2025年度 グループ外活動(開北小学校)
災害情報伝言ゲームによる防災啓発活動



【3年】

関町咲穂 増井美羽

【2年】

大久保奏亮 小山七海 千葉雄翔 根本蒼唯 福岡加彩

目次

1.はじめに	-----	3
2.石巻市立開北小学校 防災教育チャレンジデーでの取組		
(1) 開北小学校について	-----	3
(2) 災害情報伝言ゲームの内容	-----	4~5
(3) 成果と課題	-----	5
3.総括	-----	6
4.学生の感想	-----	6~8
参考:使用した副教材	-----	7~10

1. はじめに

年度初め、311ゼミナールに対し、石巻市立開北小学校より「防災教育チャレンジデー」（継続、2024年7月実施）への参加要請があった。本企画は、児童および保護者を対象に、学校現場においてワークショップを実施するという内容であった。そのため、昨年度に引き続き「災害情報伝言ゲーム」に取り組むことを決定した。参加可能なゼミ生有志7名が中心となり、小学生を対象とした防災に関するゲームを制作し、活動を進めた。

「災害情報伝言ゲーム」を実施するにあたり、災害対応時における「情報」の重要性を児童に伝えることを大きな目的とした。特に、近年SNSに触れる機会が増えている小学生に対し、情報の発信源を確認することや、特定の情報に偏らず多角的に捉える視点を持つことなど、情報を取捨選択する力を身に付けてほしいという願いがある。また、本ゲームでは、津波を想定した防災対策についても学べるよう工夫を施した。

2. 石巻市立開北小学校 防災教育チャレンジデーでの取組

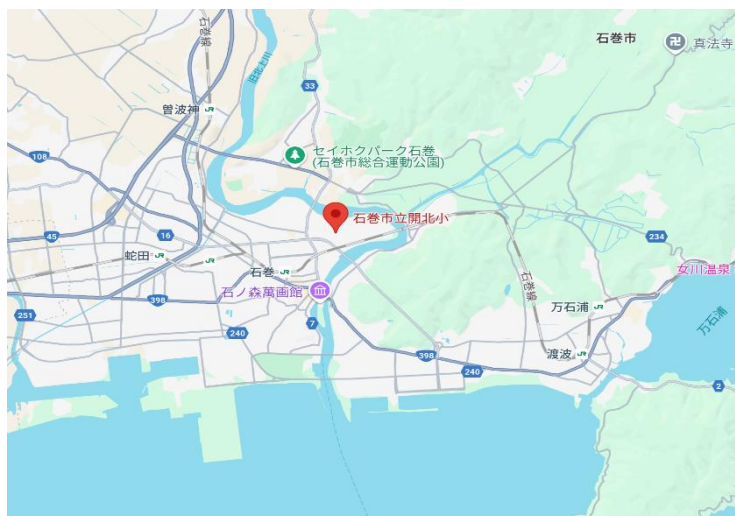
(1) 開北小学校について

石巻市立開北小学校において、児童・保護者参加型で防災について考えるイベント「防災教育チャレンジデー」が実施された。

本イベントへの参加打診は、311ゼミナール避難所運営班が第4期（2022年度）のゼミ活動として、東松島市立矢本西小学校においてマンホールトイレの設置・活用に取り組んだことをきっかけとしている。当時、現・開北小学校教頭である佐藤先生が矢本西小学校に勤務されていたことから、その御縁により、開北小学校で実施された「防災教育チャレンジデー」への参加が実現した。

当日は、親子参加型の防災教育企画である「防災ブースタイム」が設けられ、普通教室や特別教室に分散して実施された。宮城教育大学もその一つのブースとしてワークショップを担当した。宮城教育大学のほか、市や市社会福祉協議会、日本赤十字社県支部、石巻専修大学、3・11メモリアルネットワークなど、計13団体が参加し、教室や体育館を会場として、全14ブースにおいて展示、クイズ、体験型企画など多様なジャンルの防災ブースが展開された。

なお、開北小学校は比較的内陸部に位置しているものの、川の近くに立地しており、東日本大震災当時には津波による浸水被害を受けた地域でもある。



石巻市立開北小学校周辺の地図

(2) 災害情報伝言ゲームの内容

「～いのちのメガホンをつなげ!～ 災害情報伝言ゲーム」

〈宮城教育大学のワークショップ〉

石巻市立開北小学校の主催する「防災教育チャレンジデー」において、宮城教育大学は「～いのちのメガホンをつなげ!～ 災害伝言ゲーム」という伝言ゲームを基盤としたワークショップを行った。

活動の目的

- ・災害が発生した時の情報伝達と収集の難しさを体験し、実際の災害時にどのように情報を収集するべきかを考える。
- ・津波災害の時はいち早く海や川より『遠く』『高い』場所へ逃げることを確認しつつ、周囲へ避難の声掛けをすることの大切さについて考える。

活動の概要

伝言ゲームを通して、

- ①災害時に瞬時に必要な情報を選択すること、
- ②それを正確に伝えることの難しさを実感し、
- ③災害時の情報伝達のポイントを確認する。

活動の流れ(1 ゲーム 40 分想定)

	内容(所要時間)
①	全体説明・準備(8分)
②	「地震発生。地震発生。」といった音源を流す →全員で安全の確保(2分)
③	一次情報(町役場からの放送)を 1人目(6年生の児童)に情報を流す(1分)
④	2人目に伝言(1分)
⑤	3人目に伝言(1分)
⑥	4人目に伝言(1分)
⑦	5人目(保護者)に伝言(1分) →ホワイトボードに伝わった情報を書いてもらう(3分)
⑧	二次情報(Twitter)を1～4人目に見せる (5人目には、二次情報を見せないよう待機させる)
⑨	1～4人目は、5人目にどの情報(正しい情報)を伝えるかを話し合う
⑩	5人目に伝え、5人目は紙に情報を記入する

①	まとめ
②	問題解説、振り返り
③	景品(防災手ぬぐい)贈呈

対象学年

小学 4・5・6 年生

チームの構成

1 回のゲームにつき、3 チームで行う。

ゲームは 2 回行うため、計 6 チーム 30 名(内:小学生 18 名、大人 12 名)を募る。

大人は保護者、教員、地域住民に依頼する。

1 チームは児童生徒が 3 名、大人が 2 名で構成する。

(3) 成果と課題

成果

本イベントの成果としてまず挙げられるのは、災害時における情報の伝達や受け取りの難しさを、参加者が体験的に理解できた点である。伝言ゲームという形式を通して、情報が途中で欠落したり、歪められたりする過程を実感することで、正確さや優先順位の重要性を自然に学ぶことができた。これは、授業や説明だけでは得にくい学びであり、本イベントならではの成果であったといえる。

次に、小学生だけでなく、保護者などを含めた多様な立場の参加者が、情報活用の課題を共有できた点も成果である。児童がどの程度の情報量を理解し、どのように伝えるのかを大人自身が目の当たりにすることで、口頭伝達の限界や情報収集の難しさについて共通理解を深めることができた。

さらに、学生にとっては、教育現場での実践を通して、防災教育や情報活用能力育成の重要性を実感できたことが大きな成果であった。複数年にわたる改善の積み重ねや、初参加の学生による新たな視点の導入により、活動内容を洗練できたとともに、学生自身の授業づくりや教材開発への意識も高まった。

課題

一方で、課題として挙げられるのは、活動全体のねらいや到達目標が十分に明確化されていなかった点である。ゲームとしての分かりやすさを重視するあまり、参加者にどのような力を身に付けてほしいのかが明示できず、学習としての位置付けが曖昧になった場面が見られた。

また、小学生にとっての難易度設定や時間配分にも課題が残った。学生側が想定していた理解度と、実際の参加者の実態との間に差があり、情報整理に時間を要する場面や、十分な振り返りの時間を確保できなかった場面があった。事前の説明やワークシートの構成、進行方法について、さらなる工夫が必要である。

さらに、防災経験の違いへの配慮が十分であったかという点も課題として挙げられる。対象は小学 4・5・6 年生であったが、東日本大震災の記憶や家庭での防災意識には大きな個人差があり、活動の理解度や受け止め方にも差が生じていたと感じる。特に、震災を直接経験していない児童にとっては、津波や避難の切迫感を実感することが難しく、活動の意味が抽象的に感じられる可能性もあったと考えられる。

本活動を通して、学生自身も防災教育の難しさと重要性を改めて実感した。今後も、児童の実態や地域特性を踏まえながら、「行動できる防災」へとつながる実践を目指し、防災教育の在り方についてさらに検討を重ねていきたい。

3. 総括

本イベントでは、災害時における「情報」の重要性に着目し、伝言ゲームという体験的な活動を通して、情報の欠落や変容が生じる過程を実感的に学ぶことをねらいとした。特に、近年 SNS に触れる機会が増えている小学生に対し、「情報の発信源を意識すること」「複数の情報を比較しながら取捨選択する視点をもつこと」の重要性を伝える工夫ができた。また、津波災害を想定し、『遠く』『高い』場所へ避難することや、周囲への避難の声掛けをすることの大切さを、ゲームの流れの中で自然に確認できる構成となっていた。

活動当日は、児童・保護者が同じチームに参加する形でゲームが進行し、立場の異なる参加者が情報伝達の難しさを共有する場となった。一次情報と二次情報(Twitter)を比較しながら、どの情報を伝えるべきかを話し合う過程では、情報量の多さが混乱を招くことや、正確さと優先順位の判断が重要であることを、参加者自身が体感する様子が見られた。これは、防災教育のみならず、情報活用能力の育成という観点からも意義のある成果であったといえる。

一方で、対象学年に対する難易度設定や時間配分、ワークシートの説明方法などに課題が残ったことも明らかになった。大学生にとっては理解しやすい内容であっても、防災に日常的に触れる機会の少ない参加者にとっては、情報整理や判断に時間を要する場面が多く見られた。こうした点から、児童の実態をより丁寧に想定した活動設計や、ねらいを明確に示した構成の必要性が示唆された。

本イベントは、単なるイベントにとどまらず、学生にとっても実際の教育現場で防災教育を実践する貴重な学びの場となった。複数年にわたる改善の積み重ねを通して、防災教育と情報活用能力育成を結び付けた教材としての可能性が高まっており、今後は授業づくりの視点を意識しながら、より汎用性の高い実践へと発展させていくことが期待される。

4. 学生の感想

3年 関町咲穂

今回の伝言ゲームは昨年度に引き続き3度目の活動であったため、これまでの活動における様々な反省を生かしながらゲーム内容を練り直すことができた。グループ外のゼミ生からもリハーサルの協力や助言を受け、昨年度よりも良いものを作り上げることができた。活動当日は、想定よりも小学生にとっては難しいゲームとなってしまった、時間が足りなくなってしまうなどの想定外も生じてしまったが、参加者が熱中してゲームに参加している姿が印象に残っている。本活動を通し、災害時における情報収集の難しさやポイントを伝えることができた他、自身にとっても良い刺激となったことを実感している。

3年 増井美羽

昨年度から継続する活動として、新たなメンバーを迎え、7人でゲームの企画・運営を行った。前々回、前回の活動では、小学生にはレベルが難しすぎたことが課題となっており、実践に向けて週に一度集まりながら、より良いゲームとなるよう試行錯誤を重ねてきた。

活動中は、楽しそうに取り組む小学生の姿だけでなく、協力的に関わってくださる保護者や先生方の様子も印象的であった。子供がどの程度の情報量を、どれほど正確に伝えられるのかを保護者や先生に実感してもらい、口頭伝達の限界を参加者自身に体感してもらうことができた。また、SNSを使用する年齢が低下している現状を踏まえ、今年度からは新たにTwitterによる情報収集を取り入れ、情報の取捨選択を体験してもらった。ワークシートの記入方法を十分に説明しきれず、思うように進まなかった部分は課題である。しかし、学習指導要領において「情報活用能力」は、言語能力と並ぶ基盤的な能力と位置付けられている。本活動では、情報を「収集する」「選択する」「整理・分析する」「発信する」という過程のうち、三つの達成に貢献できたと考えられる。①情報が多すぎると混乱を招くこと ②正確さと優先順位が重要であること ③全ての情報は伝えられないからこそ、必要な情報を選ぶ必要があること これらを学ぶ姿勢は、これから生きる私たちや子供たちが身に付けるべき力であると強く感じた。

今回の企画は授業ではなくイベントとしての活動であったが、授業づくりを意識してゲームを構想してもよかったのではないかと考える。授業づくりでは、まず単元内容を把握し、その上で身に付けてほしい力、すなわち「授業目標やねらい」を明確に設定する。本活動では、その目標やねらいが十分に明確化されておらず、分かりやすいゲームを作ることに重点を置きすぎているように思われる。授業づくりにおける PDCA サイクルを取り入れ、教員となった際にそのまま活用できる教材として完成度を高めることが、今後の課題である。

実際の教育現場で活動させていただいた貴重な機会を大切にしながら、今後も防災教育に向き合い続けていきたい。

2年 大久保奏亮

今回初めて伝言ゲームの活動に参加したが、過去の参加者の反省点を踏まえて練り直されたゲーム内容を把握し、円滑な進行を意識してサポートに取り組むことができた。また、話し合いへの参加は途中からであったが、昨年度の実施内容をより良いものにするため、自身の過去のリハーサル参加経験を活かし、改善案を積極的に提案することができた。

活動当日は、情報を整理する場面で予想以上に時間がかかるなど、想定外の事態もあったが、メンバーそれぞれが自分の役割を果たし、小学生や保護者が真剣にゲームに取り組む様子を見られた点は大きな成果だったと感じた。

本活動を通して、災害時における情報の受け取り方や伝え方の難しさ、またその工夫の必要性について参加者に伝えることができた。さらに、私自身にとっても初めての小学生向けの防災教育活動であり、今後の教員としてのキャリアにおいて大きな学びと刺激となる経験であった。

2年 小山七海

今回初めて活動に参加させてもらい、今まで何度か行われ改善されていった伝言ゲームの活動をサポートできたと思う。わからないことだらけで、メンバーの方々にいろいろ聞き教えてもらいながら活動できた。活動当日は、想定していないプリントの使い方をする児童がいたり、予想外のことが起きて準備がまごついたり、どのように声をかけたらよいか悩む場面もあったが、全体を通してメンバーみんなで協力し合ったり、子どもたちが集中して活動している様子を見て、参加できてよかったと思える活動だった。活動を通して、情報の取捨選択の難しさと重要性に私自身も気付くことができ、情報をうまく活用できない人へのサポートの仕方も考える機会となった。教員として、一人間として災害時の情報のとらえ方について考えることができ、とてもよい経験となった。

2年 千葉雄翔

昨年に引き続き、開北小学校の防災イベントに参加させていただきました。昨年の反省点を活かし、昨年よりも有意義な「伝言ゲーム」になったのではないかと思います。311ゼミに所属して防災教育について学ぶ機会はたくさんありますが、子どもたちと実際に関わるという機会が少なく感じるので絶好の機会であったと感じています。昨年に1から作った伝言ゲームですが、子どもたちの笑顔を見ると頑張ったよかったと心から思いました。

将来教員になったとき、子どもたちの命を守る立場になったとき、この経験が少なくとも役に立つときが来ると思っています。そんな時に学校内で一番最初にアクションを起こせるような教員になることを目標に今学んでいます。これからも311ゼミの活動を通して、日々成長していけるように1回1回の活動を大切にしていこうと思います。

2年 根本蒼唯

昨年度に引き続き、伝言ゲームの形では3回目の教育現場での実践となった。回を重ねるごとにブラッシュアップし、より良いものにすることができた。だが同時に、少し複雑になりすぎた部分もあった。小学生対象のゲームであるため、そのバランスが難しいことを改めて考えさせられた。

しかし、子どもたちを前にゲームを行うと、想定していなかったようなリアクションや盛り上がりがあって、やりがいを強く感じる事ができた。3度も素晴らしい経験をさせていただき、まだ沢山吸収できることがあったので、今後活かすと同時に、この機会を共に作ってくれたメンバーや先生方に感謝したい。

2年 福岡加彩

昨年度に引き続き3度目の活動となった。昨年から何度も改善を重ね、過去の経験や、311ゼミナール内でのリハーサルからもヒントを得て、昨年度よりもより良い形になったゲームを作成できたと感じる。活動当日は、想定以上に時間のかかる場面や、時間の足りないような場面が見られたが、真剣に取り組む姿から大きな成果を感じた。

昨年度よりも難易度を下げたと思っていた本活動であったが、防災に視点をおく活動を定期的に行っている大学生と、避難訓練の際などにしか防災に触れない子どもたちとは、感じる難易度が大きく違うことが分かった。本活動から、防災に視点を置く活動の有無が、実際に災害に遭ったときの思考の容易さに大きく関わると感じた。教員になった際の防災教育の重要性を感じる、大変良い経験となった。

【参考】

使用した副教材は以下の通りである。

① 防災無線と一次情報(ニュース)の原稿

【防災無線】

地震発生。地震発生。こちらは防災石巻、石巻市役所です。ただいま地震がありました。落ちついて行動して下さい。まず身の安全を守り、火の元を始末して下さい。外にいる方は落下物やブロック塀などに気をつけて下さい。今後のテレビ、ラジオの情報を聞いて、落ち着いて行動して下さい。

【ニュース原稿】

ここで地震の情報をお伝えします。午後1時45分ごろ、東北地方で強い地震がありました。震源地は宮城県沖。次の地域は、強い揺れに警戒してください。宮城県、岩手県、山形県、福島県、茨城県。該当する地域の方々、倒れやすい(家具)などから離れ、(テーブル)の下などに入って身を守ってください。外にいらっしゃる方は、持ち物などで(頭)を保護し、(ブロック塀)や(電柱)など倒壊の恐れのある場所から離れましょう。また、上から落ちてくるもの、倒れてくるものに気を付けてください。地震の詳しい情報は入り次第お伝えします。

ただいま入ってきた情報です。東北地方に(大津波警報)が発表されました。繰り返します。只今東北地方に(大津波警報)が発表されました。津波の高さの予報は、岩手県3メートル、宮城県(6)メートル、福島県3メートルです。速やかに(高い場所)へ避難し、海や(川)の付近には絶対に近づかないでください。」

②一次情報のよく見て・聞いておくところプリント

～いのちのメガホンをつなげ!～ 災害伝言ゲーム

☆ よく見て、聞いておくところポイント ☆

① ニュースを見て、だれかに伝えるとき

・また地震(じしん)が起きるかもしれないので、

『たおれやすい(-----)からはなれて、(-----)の下に入って身を守る。』

ことを伝える。

・外にいるときに地震(じしん)が起きたら、

『持っているもので(-----)を守って、ブロック塀(べい)や電柱など、

(----- もの)からはなれる。』

ことを伝える。

・津波(つなみ)について

『東北地方に(----- 警報)が発表された。

宮城県をおそう津波(つなみ)の予想高さは、(-----)m。

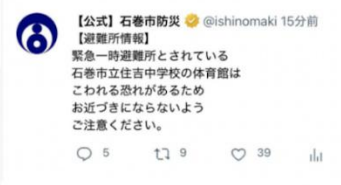
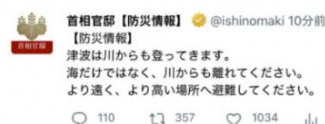
すぐに(-----)場所へひなんして、海や(-----)の近くにはぜったいに

近づかない。』

ことを伝える。



② 二次情報(Twitter)



③ 二次情報で使用するワークシート

～いのちのメガホンをつなげ!～ 災害伝言ゲーム

☆ ワークシート ☆



② Twitter (SNS) を見て、だれかに伝えるとき

信頼できる情報（情報を整理したら、信頼できる情報のみ 5 人目に伝える）	
例 仙台市役所（発信源を書く）	八幡 <small>はちまん</small> 小学校に避難所が開設された (何があった)
①	
②	
③	
④	

信頼できない情報	
例 仙台市役所（発信源を書く）	八幡 <small>はちまん</small> 小学校に避難所が開設された (何があった)
⑤	
⑥	
⑦	
⑧	

⑤まとめプリント

～いのちのメガホンをつなげ!～



さいがいでんごん

災害伝言ゲーム

宮城教育大学311ゼミナール

6月13日(金)

じょうほう あつ

情報を集めるためのキーワード

『だいふく』

だ だれが言っているのか

い いつ言ったのか

ふく 複数の情報を確かめたのか



つなみ 津波がきたら...

◆ より遠く、より高いところへ
避難する

◆ 川に近よらない

◆ 信頼できる情報を集める



じしん 地震がきたら...

外にいても、屋内にいても、
落ちてくる物から
『頭』を守ろう

